

江苏省2010年省级精品课程 (SP09008)

江苏省教育厅高校哲学社会科学基金资助项目 (项目编号: 09SJB740003)

主 编 赵 平 高鹏飞 李 玲
主 审 小林荣三 田村恭平 王世钟

日语深度阅读

赵 平 著 ——

・私の宝物

・秦娘美——黔劇を謡う人たち

・天にむかって歌う



南京大学出版社





江苏省2010年省级精品课程（SP09008）日语泛读与听力配套教材

江苏省教育厅高校哲学社会科学基金资助项目（项目编号：09SJB740003）

日语深度阅读

主 编 赵 平 高鹏飞 李 玲
主 审 小林荣三 田村恭平 王世钟

南京大学出版社



图书在版编目(CIP)数据

日语深度阅读 / 赵平等主编. —南京: 南京大学出版社,
2011.5

(新时代日语系列)

ISBN 978-7-305-08303-7

I. ①日… II. ①赵… III. ①日语—阅读教学—自学
参考资料 IV. ①H369.4

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2011)第 059781 号

出版发行 南京大学出版社

社 址 南京市汉口路 22 号 邮编 210093

网 址 <http://www.NjupCo.com>

出 版 人 左 健

书 名 日语深度阅读

主 编 赵 平 等

责任编辑 舒 欣 编辑热线 025-83592123

照 排 南京玄武湖印刷照排中心

印 刷 南京人民印刷厂

开 本 787×960 1/16 印张 13.5 字数 252 千

版 次 2011 年 5 月第 1 版 2011 年 5 月第 1 次印刷

ISBN 978-7-305-08303-7

定 价 33.00 元(含光盘)

发行热线 025-83594756

电子邮箱 Press@NjupCo.com

Sales@NjupCo.com(市场部)

* 版权所有,侵权必究

* 凡购买南大版图书,如有印装质量问题,请与所购
图书销售部门联系调换

叡智と優しさの継承を！

小野寺健

(特定非営利活動法人日中友好市民倶楽部理事長・淮海工学院客員教授)

時代の渦に巻き込まれながらも、直向に生きる「草莽」の姿は、時空を越えて、人々に感動を与え、「生きる力」を鼓舞する優しさに満ちている。

さて、私は、「岩手磐井の一関、名も高崎の城の跡」と高らかに謳い上げる「学舎」に集ったのであるが、一年生の課外授業で、仏教学に造詣の深い学識豊かな校長は、マルコポーロの「東方見聞録」においても、「黄金の国ジパング」として紹介された奥州藤原氏が建立した「毛越寺」の平安浄土庭園の中で、歴史と文化に無縁な「洩垂れ小僧」に、何とも深遠な問いを發した。

「京・鎌倉を凌ぐ栄華を誇った奥州藤原氏が滅び、堂塔三百と称された寺院は、何故再建されなかったのか」と、このような問いに、岩手・宮城の俊英が集うと言われながらも、「洩垂れ小僧」からは、一言も発せられなかった。

そして、白髪瘦身の校長は、静かに「権力者に依存する宗教は、権力者の盛衰とその運命を共にするが、大衆が帰依する宗教は、時代の変動を乗り越えて永続する」と語った。

何と示唆に富み、「生きる力」を鼓舞する優しさに満ちた言葉であろうか。

利に聡く、権力に媚び、傲慢に生きる处世がある一方、傷つき倒れながらも、自己の信念を貫く「草莽」の姿勢は、時空を越えて、共鳴を喚起する力がある。

また、核心に触れる読書は、叡智と優しさを継承し、豊で稔り多い人生の「醍醐味」を、齎すものである。

なお、このような書物の書き手は、辛酸を嘗めながらも、優しさを失わずに生きる者のみが、為し得る偉業とも言えよう。

かくて、僭越ではあるが、畏友・趙平先生の書物が上梓されるに当たり、推薦の辞を認める次第である。

2010 年菊花薫る頃

艰难绝阻，成我人生

(此文是为迎接新生写的演讲稿，借为本书自序)

赵 平

三十年前，我也曾是一名大学生。如今，我是一名日语教师。日语中有一句箴言，我姑且把它译为：长袖相拂，亦是他生之缘。

在海外游学多年后，我回到了祖国的怀抱，落根苏北，每日置身于淮海园朝气蓬勃的学子之中，这就是一种缘分。我经历了从煤矿工人到英语翻译，再到留学生，及至日本大学教师、中国大学教师的成长过程。如今站在淮海园的讲台上，我所依托的或许可以说是亿万年修得的缘分吧。

我是一名彻底的唯物主义者，从不相信前世或来生。我所说的“亿万年修得的缘分”，其实只是唯物主义的简单道理。人人都明白，我们生活中的每一件事情，都是由无数个偶然——甚至是负面的偶然——组合而成的必然。正是由于亿万年前的种种偶然，促使人类与其最早的血缘兄弟——鼠类分道扬镳。天灾是一种偶然，它结束了恐龙时代，给哺乳动物腾出了生存空间。地变是一种偶然，它将人类的祖先驱赶出丰饶的森林，迫使他们告别树上的弟兄，到草原上去编写猿猴的历史……再经过无数偶发事变和为了对应事变而做出的殊死努力，人类终于脱出爬行动物的行列，步入昂首奔走的新纪元。这种由偶然事变逼迫出来的努力所带来的必然，在我看来，就是修炼出来的缘分。

三十多年前，一段缘分促使我学起了英语。这段英语缘又将我带入大学，结识了恩师倪龙渭先生。毕业后天各一方，音信也少，然而与恩师的缘分尤在，因此，在二十年后，在倪龙渭老师的感召下，我放弃了国外的工作和生活，来到了淮海园。

茶前饭后，我被问的最多的一个问题就是：你怎么舍得放弃日本那种优裕稳定的生活来到苏北这么一个“穷乡僻壤”呢？我的回答总是：长袖相拂，亦是他生之缘。我与恩师相知相交的师生之缘先天就已注定，无法割舍。再者，艰难困苦，成汝人生。相比之下，苏北的发展是慢了一些，而这不也正是发挥我们才能的绝好舞台吗？

磨难，与我的人生似乎也结下了一种不解之缘。

我出生于“天无三日晴，地无三尺平，人无三分银”的贵州。少年时代正值“文革”期间，读书只读到小学四年级，跟初中、高中无缘，13岁下矿挖煤，后来又干过车工、磨工、铣工、钳工等。22岁那年，我决定向考入大学冲刺。由于我曾因偶发事故



留下了严重的脑震荡后遗症，工厂的师傅和师兄弟们都认为像我这样的低能儿是根本没有希望进入大学殿堂的。然而，就在师兄弟们斗扑克牌和张家长李家短的喧闹声中，我铢积寸累地努力，用了一年的时间实现了人生的第一个梦想。

努力，不仅能弥补任何先天缺憾，也能带来超乎寻常的收益。

大学临毕业时，我考研失败，回到了贵州，成了贵州大学的一名教师。然而，我并没有放弃读研究生的梦想，边教书边自学，又是经过一年的寒窗苦，以不错的成绩考入了天津外国语学院，圆了又一个美好的梦想。

命运注定我的磨难未尽。就在我整装待发要去天津外国语学院攻读硕士学位的时候，被查出身患恶性肿瘤，从此与手术台结下了不解之缘。我渴望完成研究生学业，于是，手术伤口还没完全愈合便奔赴“天外”。然而，仅仅一个月，肿瘤转移，只得在北京第二次接受紧急手术。然后，我怀着万分遗憾返回了故乡，继续接受化疗。

一年的化疗，所经历的痛苦，只能用“非人”二字来形容。化疗的呕吐反应稍微平息，我便努力进食，为第二天的化疗储备体力，同时以书为伴。后来，由于血相过低无法继续化疗，连主治医师也选择了放弃。我告诉自己：也许，我别无选择，只有坚持和努力才能让自己爬离地狱的边缘。于是，我断然办理了出院手续，回家自疗！奇迹总是在坚持与努力中产生，一年后，我再次回到天津外语学院的课堂，在名师朱万清的麾下学习语言学。

偶发的恶性肿瘤造成的磨难，却玉成了我又一段精彩人生！

天津外国语学院毕业后我留校任教，不久东渡日本留学。只身一人在异国他乡，再遭些磨难总是难免的，可谁知到了我身上事情总是这么惨烈！

到日本后的第6年，我到长野县讲学时，竟骑着摩托车与卡车相撞！结果被甩飞出去二十多米，造成身上数处严重粉碎性骨折，住院长达半年之久。其间，导师到医院探视，开口便说“赶紧写博士论文”！这也太不讲人性了吧——学生躺在病床上半身不遂，竟然催写论文！于是，我支吾着说“等出院后再说吧”。然而，导师却十分认真地说：“一天也不能等。机会，不是等来的，而是在突飞猛进中撞上的。”

导师的话让我幡然醒悟，让我意识到时不我待。于是我就在病床上敲击键盘，在数次接骨手术的苦痛之中完成了博士论文初稿。为了尽快出院参加答辩，我又拄着双拐练习走路，从医院到家里正常人15分钟的路程，我要走整整4个小时。当浑身上下都被汗水湿透、精疲力尽地走到家门口时，我明白自己又一次战胜了自己。据说，医生和护士曾满院子地寻找我这个不可思议地丢失了的病人。

出院以后，我顺利通过论文答辩，获得了博士学位。事后想想，如果住院期间不能完成博士论文，出院后背负打工生活的重压，以我的精力和能力，那几十万字的论文必定不能按要求完成，后来的文学博士课程、在日本大学任教，以及被作为人才被引进到淮海工学院任教，都将成泡影。



其实,当初我的真实想法是比较消极的:既然已经有了几个硕士学位,也就不要过于苛求博士学位的桂冠了,更何况我所在的学校 17 年来在我所学的专业上也只授予过一个博士学位。我当时想:这漫长的 17 年空白怎会轮到我这个留学生来填补?更何况咱又是一个被同学们称为“皮带没眼——系(记)不住”的主儿。然而,没有想到的是,严重的交通事故竟然赐予了我这个千载难逢的良机!

2001 年,在恩师倪龙渭的召唤下我来到淮海工学院时,日语专业还处于步履维艰的草创阶段。我迫不及待地开出了几门新课程。由于是新课程,别的老师需要时间熟悉,我便自告奋勇地全部包揽下来。在此后的 3 年里,我同时扮演着系部领导、普通教师、父亲加母亲(身边带着一双儿女)的多重角色。为了多上课、上好课,我常年夜以继日地工作。这种不顾身体健康的做法,令我又一次被癌症袭倒。

这次的肿瘤出现在胸部,大如拳头,发现时中央已经溃烂,形成大面积胸水。做开胸手术时发现肿瘤已经浸润了其他脏器,无法完全切除,只能做姑息手术,随后转为放疗。在肿瘤病房里,我看到其他病人盯着天花板,满眼无助。在命运的突变面前,有许多人无法适应自己的新角色,在煎熬中一点一点地放弃了获得新生的希望。只是,我却没有等待或放弃的富裕时间,因为我知道,学院里的老师和同学们正期待着我的回归。我肩上所担负的行政、教学和家庭三副重担,任何一副都不能随便放下或推给他人。于是,我利用放疗的间隙,又一次开始了在病床上的写作……当结束治疗走出医院时,我在病房里编写的《挑战日语口语》一书已将面世。在接下来的五年间,我出版了 20 部教材和专著,竟在不知不觉间成为所在院系的科研大户。

这就是我的经历和人生。两次癌症的威胁和一次交通事故,都没有让我的生命停息下来。相反,却成为我向上攀登的动力。这也使我通晓了这么一个道理:眷顾自助之人的这个“上天”,原本就存在于自助者的心中,就看你要不要了。

如果你决定做一只鹰,那就不可惧怕逆风。只有借助逆风,你才能飞升到更高的苍穹上去搏击。

我感谢每一个让我身处逆境备受磨难的偶然。在积极的人生抉择面前,任何磨难与挫折都将成为一次新腾跃的起点。

在一次开学典礼上,面对莘莘学子,我曾发自肺腑地说过这么一段话:至今为止,大多数同学在生活中,都沐浴在父母那细致入微的呵护之中;在学习上,也常常是被动思考,不思创新,只知“谨遵”师教。然而,进入大学以后,一切将截然不同。大学是自立、开拓、探索、获取、张扬个性的竞技场,每一个学生在这里都必须从心理上彻底“断奶”,体验做成年人的种种烦恼,历经重重挫折,在这个过程中寻找到搭建自己知识结构的最合适的立足点,用汗水喷洒自己未来的人生之路。在大学里,老师不再是护犊的母牛,而是学子们脚下的方砖。老师仅仅铺就你们成功之路的最初几块基石,剩下的大段路程必须由你们自己走下去。因此,你们必须迅速适应这一



转变，尽快进入角色。张惶失措、消极等待、不知如何自助的人，神灵亦无能为力。“天道”只会“酬勤”……

失败与挫折是人生的伴侣，它们与生俱来，与我们形影不离。没有牙牙学语的含混不清、错字病句，你就不可能有日后的出口成章、下笔有神；没有步步趑趄、跌倒爬起，你就永远学不会用自己的双脚丈量大地、健步如飞。甚至在这安宁的大学校园里，我们也无法回避失败与挫折。交友的失误让我们知道友情的珍贵，学业的拖后让我们明白时光的珍贵，考试的挂科让我们懂得勤奋的珍贵……总之，只要我们求知求新的欲望没有泯灭，那么，失败与挫折终究会助我们构建起一段段坚实的人生，使我们一步步走向成熟——我常对同学们发出这样的感慨。

回顾我自身走过的道路，亦是如此。没有严重的脑震荡，我不会拿起英语课本走入大学校园；没有意外的交通事故，我不会如期获得博士学位证书；没有死亡的威胁，我不会创造出超乎自己能力的业绩。甚至，如果没有第一次癌症，我也许就不会有挺过第二次癌症的勇气。我感谢过往时光中的每一次失败与挫折，是它们让我有幸在茫茫的人生旅途中点起了属于自己的那一盏明灯。

在淮海园艰苦创业的八年里，组织上也给予我诸多荣誉：先后被评为连云港市劳动模范、江苏省优秀共产党员、江苏省优秀教师等。同时，我的著作也多次获奖，科研成果得到同行的认可。

在整理过去的物品时，我翻出了一张大学一年级时的考卷（注：我当时考了全班倒数第一），当中还夹着一张研究生准考证，上面赫然印着“中国社会科学院”几个大字。我都怀疑，自己当初怎能在还未参加大学统考时就胆敢挑战中国社会科学院的硕士研究生考试！这张准考证记录了我曾经有过的梦想，而这个梦想早已在我的人生中，甚至在更高的层次上，得到了实现。

眼下，尽管死亡的威胁依然如影随行，拉锯战般的治疗仍在进行，然而，伴随着死的阴影笼罩下生的快乐，我依然珍惜着每日点点滴滴的缘分，依然怀抱着许多似乎不切实际的新梦想。我坚信：只要有追梦到底的真心和勇气，我所有的新梦想也跟年轻学子们的一样，会借助一次次偶发的颠踬淹蹇，在不久的将来逐一得到实现。



◇ 编写·录音·插图人员一览 ◇

(日本人名及所属用日语汉字)

主 编 赵 平 高鹏飞 李 玲

副主编 苏调和 钟 丹 梅 花 李 洁

参 编 崔 忠 毕鲁杰 吴 琴 白井一男 李 力 夏芸芸 滕 严
田村恭平 周媛媛 熊玉娟 王玲玲 王景辉 李爱华 杨树曾
黄 博 蒋庆荣 张 勇 王洁琳 赵康英 刘 雯 韩 琦
韩 露

主 审 小林栄三 田村恭平 王世鐘

参 审 惟康洋一 荒田一郎 大室光子 橘雄三 新井菜摘子 松尾篤志
浜口一広

插 图 竹中信 惠 雪 赵 平

录音/剪辑 赵 平 赵 妮

● 以上人员所属一览(按姓氏笔划排序)

王世钟 (曾任教于淮海工学院)

王玲玲 (淮海工学院)

王洁琳 (淮海工学院)

王景辉 (湖南涉外经济学院)

刘 雯 (江苏农林职业技术学院)

毕鲁杰 (江苏农林职业技术学院)

苏调和 (昆山广播电视大学)

李 力 (哈尔滨工业大学·威海)

李 玲 (日本同志社大学)

李 洁 (淮海工学院)

李爱华 (淮海工学院)

吴 琴 (淮海工学院)

张 勇 (淮海工学院)

周媛媛 (江苏农林职业技术学院)

杨树曾 (常熟理工学院)



- 钟 丹 (武汉职业技术学院)
赵 平 (淮海工学院)
赵康英 (江苏大学)
高鹏飞 (苏州大学)
梅 花 (连云港常青职业技
黄 博 (南京林业大学)
崔 忠 (淮海工学院)
夏芸芸 (哈尔滨工业大学·威海)
惠 雪 (九州职业技术学院)
熊玉娟 (淮安生物工程高等职业学校)
韩 琦 (大连大学)
韩 露 (无锡太湖学院)
滕 严 (哈尔滨工业大学·威海)
- 小林栄三 (日本百科全书編集者・曾任教于淮海工学院)
大室光子 (日本千葉県松戸市ニホン国際 ITカレッジ)
白井一男 (日本出版編集者)
田村恭平 (淮海工学院)
竹中 信 (日本専業画家)
松尾篤志 (上海海洋大学)
荒田一郎 (江西農業大学南昌商学院)
浜口一広 (日本富島漁業協同組合)
惟康洋一 (淮海工学院)
新井菜摘子(宿遷学院)
橘 雄三 (日本移情閣孫文記念館)

● 录音朗读人员一览

- 新井菜摘子(宿遷学院)
関 直人 (日本劇団 NLT)
永井美羽 (日本劇団 NLT)
茂木直人 (日本劇団 NLT)
山崎華奈 (日本劇団 NLT)
桑原一明 (日本劇団 NLT)
谷坂宜子 (日本劇団 NLT)



浦田千晶 (同前)
北沢 史 (日本劇団 NLT)
渡辺直子 (日本劇団 NLT)
由川信幸 (日本劇団 NLT)
守屋利香 (日本劇団 NLT)
川島 拓 (日本劇団 NLT)
山崎未花 (日本劇団 NLT)
古賀勝行 (日本專業演員, 配音演員)
森畑結美子 (日本專業演員, 配音演員)
惟康洋一 (同前)
こみなみあきこ (美国配音演員)
田村恭平 (同前)
平山 崇 (中国科学技術大学軟件学院)
韩 琦 (大连大学)
赵 脩 羽 (连云港市外国语学校)
赵 含 嫣 (连云港市外国语学校)
赵 平 (同前)

鸣 谢

本书在编辑、录制、出版过程中,承蒙常青职业技术学校及中国国际人才开发中心孙招青总经理、昆山电视大学、武汉职业技术学院、连云港市侨联提供资助,谨表感谢!

特别感谢《Hinabeshi》杂志的总编谷川毅教授、橘雄三老师和画家竹中信先生!我在日本公开发表的许多作品,都是在谷川毅教授的无私支持和鼓励下完成的。我在日本纯古堂书局出版的『天に向かって歌う』作品集,是橘雄三老师和画家竹中信先生给予的援助。

目 次

• 叡智と優しさの継承を！	1
• 艰难绝阻,成我人生	2

一、私の宝物

1. 「私の宝物」について	2
2. ゆきのした	4
3. 私の宝物(附译文)	6

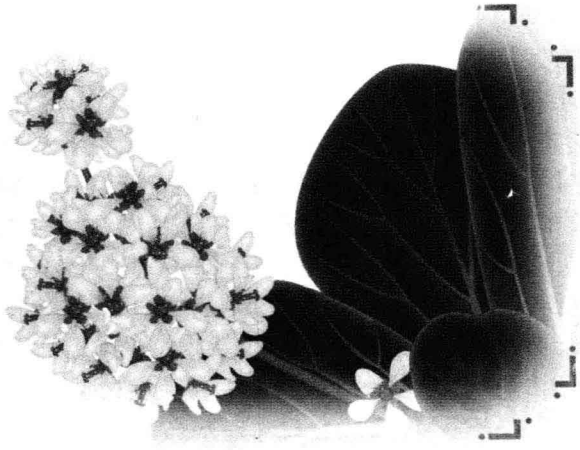
二、秦娘美——黔劇を謡う人たち

1. 「秦娘美——黔劇を謡う人たち」を読んで	16
2. 受難と赦し	20
3. 秦娘美——黔劇を謡う人たち(附译文)	22

三、天にむかって歌う

1. 読書の醍醐味、歴史の再現	74
2. 手のひらを太陽に	76
3. 天にむかって歌う(附译文).....	78

私の宝物





「私の宝物」について

滕 巖

この作品はまず「ユキノシタ」という草の中国名「虎耳草」をあげ、その名の由来を紹介し、「私の愛用する英語の辞書には、虎耳草の葉っぱが一枚挟んである。これは私の大切な宝物だ。この葉っぱは亡くなった祖父からの、大切なたったひとつのプレゼントなのだ」というところから話が始まります。筆者の記憶に従って、タイムトンネルを通り、かの暴力的で、多くの犠牲者と被害をもたらした政治闘争が目の前に現れるようです。幼い筆者は「走資派」の両親のために、進学できず、住んでいた都会から祖父の村に移り住みました。そこで、祖父が筆者の生活と精神のすべての頼りになりました。突然の変化に筆者は落込む毎日でしたが、やがて村でただ一人読み書きのできる祖父もこの政治運動に巻き込まれ、村の批判会場でつるしあげられました。年を取り体力が衰えた祖父が肉体的精神的に痛めつけられるのを目の当たりにし、筆者は人生にさらに絶望しました。しかし、その時、そんなひどい目に遭ったにもかかわらず祖父は笑い出し、手元の地面に落ちている虎耳草の葉を一枚拾って淡々と筆者に話しました。「この虎耳草は踏みにじられてダメになったみたいだが、とれたところに新芽がわずかに残っているだろう。小さな新芽はかすかな緑の希望さえあれば、また雨の季節、かわいい虎の耳が風の音を聞きに、地面から姿をあらわすんだ。」「苦しい気持ちも幸せな気持ちも、つきつめれば一人ひとりの人間の、その人だけの感情と意志の問題にすぎないと思うんだよ。見方を変えれば暗い現実からでも明るい未来を見ることができんだ」。本を閉じてよく考えると、何の変哲もない虎耳草の葉を大切に感じるのは、その葉が祖父の教えてくれた一つの人生観を象徴しているからだということが分かります。人間は誰でも辛い経験をするし、さらなる苦境に陥ることもあります。しかし、いつまでもくよくよせず、逆境にめげず、苦難を乗り越え、理想と信念を諦めずに一生懸命追求すべきです。傷ついてでもすぐに立ち直り、どんな時も物事を前向きに捉えていきます。そのような人生観こそが祖父が筆者に残す何ものにも代え難い宝物なのではないでしょうか。

『家への手紙』の作者、才気あふれる傅雷は逆境にめげない不屈の精神がなかったために、苦境に陥った時、自殺するという方法でしか暗い世界に抵抗できず、早すぎる死を遂げることとなりました。これに対して、中国の改革開放の総設計師



である鄧小平はどんな時も物事を前向きに捉え、勇気を奮い起こし立ち向かう精神があったからこそ、成功を収めることができたのです。

この作品は短編ですが、筆者の構想が極めて巧みで、独自の芸術性を持つと言えます。筆者は初めの部分で、どこにでもある平凡な虎耳草の葉が意外にも「私の宝物」だと取り上げ、この虎耳草の葉がどうして筆者の宝物になったのかを述べています。このような斬新な書き方は読者を惹きつけます。平凡な虎耳草の葉が特に大切になる過程は筆者の平凡ではない人生の経験を表します。深いテーマにしみじみと考えさせられるのです。それに、筆者の流れるような文章の中に、数少ないがきめ細かい感情描写があり、祖父に対する熱い情感がひしひしと感じられます。

悲しいこと、つらいことがあってもくじけず、前向きで明るい生き方をするという虎耳草の葉が持つ祖父からの教えを筆者は生き生きとした日本語で表現してくれました。この作品は功利的で慌ただしい社会の中で、まるで夏山に流れる水のようにさわやかで、元気を与えてくれるのです。

この作品を成長過程にある若者に特に薦めたいです。そして、筆者がこれからもさらに多くのこのような作品を書き、夢のために一生懸命頑張っている若者を励ましてくれることを期待しています。



ゆきのした

白井一男

日本の超長寿テレビドラマに「水戸黄門」があります。江戸時代に実在した將軍の縁戚、水戸光圀が、諸国を巡って権力を振りかざす悪人を成敗するという、単純な勧善懲悪物語ですが、それに繰り返し登場するシーンがあります。

ある地方の農村。権力者である悪代官に無理難題を突きつけられた朴訥な農夫が、代官屋敷に掛け合いに行きますが、結託しているやくざ者に散々殴られて外にほうりだされてしまいます。それを陰で覗いていた幼い子供が傷ついた親に駆け寄って……。

ドラマではここに黄門一行が通りかかって悪を懲らしめるという展開になるのですが、このシーンを文化大革命下の中国の農村に移し変えると、まったく異なった様相が見えてきます。

祖父を殴打するのは、権力者ではなく、「読み書き」のできない同じ村の村民です。そして、当然ながら救い手は現れません。「臭いインテリ」である祖父に対する迫害がこれで終わるという保証は全くありません。それどころか、こうした状況を作り出した文化大革命の嵐は静まる気配さえないのです。

こうした八方塞がりの、ある種絶望的な状況の中で、中国の人々は如何に生きたのか、という物語は、他ならぬ中国人自身の手によって数多く書かれています。これら数多くの物語と、この趙平先生の「宝物」が異なっているのは、文化大革命という時代のうねりを大局的観点から俯瞰するのではなく、「私」と「祖父」との関係という個の観点に収斂して描く点でしょう。確かに文化大革命があったからこそ私と祖父は肉親の絆を一層強めることになったのですが、この背景はあくまでも物語の香辛料のようなもので、物語に深みと現実性を付加する役割を担っているに過ぎず、物語は「私」と「祖父」の関係で完結しているといえるのではないでしょう。

このため、文化大革命という異様な時代の特別な物語ではなく、物事の見かたを変えることの大切さを教える普遍的な物語として昇華され、極限状態に投げ込まれたときに一層輝きを増す人間の強さの賛歌となっているのです。

日常のなかの一こまを見事に切り取って写生してみせる作者の力量には、並々ならぬものを感じます。珠玉の短編という賛辞がふさわしい作品です。